

この立坑やぐらの保存にご協力ください！

三池炭鉱有明坑立坑櫓

有明海に面する三池炭鉱はかつて日本一の出炭量を誇り、日本の近代化と戦後の復興を牽引してきました。平成9年3月30日に閉山しましたが、最後まで鉱員・職員が入昇坑していたのがここ有明坑です。立坑櫓はその象徴でもありました。

ここには台形とZ型の2つの異なった形の櫓が残されています。国内の炭鉱跡で異なった形式の2つの櫓が残されている例はなく、貴重なものです。

また、三池炭鉱を含めた九州・山口近代化産業遺産をユネスコ世界遺産へ登録しようという動きがある中、三池炭鉱の規模を知る上でも重要な遺産です。

閉山後有明坑は閉鎖され、諸施設は解体され現在は2つの櫓が残るだけです。櫓だけでも、炭鉱があった証として残すために、保存活動にご協力ください。



有明坑立坑櫓（左が第一立坑櫓、右が第二立坑櫓）

立坑櫓は地下の坑道に降りるための施設です

それぞれの櫓の足元には、もともと立坑の坑口がありました。深さは第一立坑が517m、第二立坑が361mになります。人がこれらの立坑を昇降するためには、ケージと呼ばれるエレベータのような箱に乗っていました。そのケージを動かすために、ケージを吊っていたワイヤーロープを地上にあった巻上機で巻き取ったり緩めたりしていたのですが、そのときワイヤーロープを通す矢筈と呼ばれる大きな滑車を支えていたのが、これらの立坑櫓です。

どちらの櫓の形式も、国内では他に一例あるだけです

立坑櫓の形式は時代によって変化してきましたが、ここ有明坑にある2つの立坑櫓は、第一立坑櫓が台形、第二立坑櫓がZ型をしており、いずれも旧三池炭鉱の既存施設にはない独特の形式の立坑櫓です。第一立坑櫓のような台形の立坑櫓は国内では、類似例として北炭幌内炭鉱入気立坑櫓があり、海外ではユネスコ世界遺産となった、ドイツのツォルフライン炭鉱第12立坑などがあります。一方、第二立坑櫓のようなZ型の立坑櫓は、国内では池島炭鉱の第二立坑櫓にあるだけです。



池島炭鉱立坑櫓、ツォルフライン炭鉱立坑櫓

異なる2つの櫓が残されているのは国内ではここだけです

ところで、多くの炭鉱では坑内の通気を確保するために、入気用と排気用の2つの坑口を設けます。しかし有明坑のように2基の櫓が残されている炭鉱跡は、国内でもあまり例がありません。また異なった形式の2つの櫓が残されているのは、国内では有明坑だけです。



昭和開から見た有明坑立坑櫓

特定非営利活動法人
大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ

〒836-0842

福岡県大牟田市有明町1-1-1

TEL 0944-52-7026

FAX 020-4624-8613

URL <http://www.omuta-arao.net>
(署名用紙をダウンロードできます)



わたしたちは、大牟田・荒尾を拠点に炭鉱のまちの心象風景を、次世代に継承していくための活動を行っています。

三池炭鉱の坑口と坑道

『三池炭鉱概要』、『みやのうら』、『三池炭鉱案内』、『福岡県史（三池炭山年報）』などを参考に作成しました

(有明海)



三池炭鉱は一体の施設

三池炭鉱の坑口は荒尾市からみやま市にかけて分散していますが、有明坑はそれらの中で最北端の坑口になります。坑口は分散していますが、地下の坑道でそれらは結び付けられた一体のものであり、三池炭鉱閉山前は有明坑から人が出入りし、石炭は三川坑から運び出されていました。

櫓の形式の違いは、異なる会社によって開発された歴史の反映

有明坑は日鉄鉱業(株)が昭和33(1958)年に開発を始めましたが、大量の湧水などが原因で昭和42(1967)年に炭鉱の開発は中断されます。なお第一立坑櫓は、昭和38年撮影の写真に写っていますので、それ以前に建てられていたことが分かります。

その後、昭和47(1972)年に三井鉱山(株)が買収し、開発は再開されます。出炭は昭和51(1976)年から始まりましたが、第二立坑櫓が建設されたのもこの年です。

三池炭鉱最後の坑口

三池炭鉱は平成9(1997)年3月30日に閉山しましたが、その際に最後まで鉱員・職員が入昇坑した坑口がこの有明坑です。閉山時には多くの報道陣が取材し、最後の三池炭鉱の様子、特に立坑施設の巻上機稼動の様子や出入りする鉱員・職員を映し出し、「閉山」の象徴的な舞台となりました。

有明坑の位置



有明坑跡の面する海はみやま市唯一の海

有明海に面した干拓地である昭和開のその先に、有明坑の立坑櫓は建っています。

有明坑はもともと旧高田町の有明海沖に人工島を建設しそこに坑口を設けたものです。その後、埋め立てと昭和開きの干拓によって、旧高田町への出口は有明坑によってふさがれることになりました。

もし有明坑跡を活用できれば、約半世紀ぶりに、みやま市は市民に海を取り戻すことにもなります。

2つの櫓の保存を求めます

平成19年の春に有明坑跡の敷地は民間建設会社に売却されました。関連の施設は解体され、現在は2つの櫓が残るだけです。しかし、櫓だけでもみやま市に炭鉱があった証を残すため、まずは所有者に緊急に解体留保の要請をしていただき、みやま市で取得され、保存活用していただく事を強く要望します。

現在、有明坑立坑櫓の保存を、みやま市とみやま市教育委員会に求める署名を集めています。ご協力をお願いいたします。

お問合せ先：特定非営利活動法人 大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ

TEL: 0944-52-7026 <http://www.omuta-arao.net/> (署名用紙あります)

